

令和 8 年度

第 18 回 和光市地域公共交通会議

(1)開催概要

- 日 時 : 令和 8 年 6 月 29 日(月) 10:00～
- 場 所 : 和光市役所 502 会議室
- 出 席 者 : [和光市地域公共交通会議委員] 出席 24 名
[事務局] 4 名
[傍聴] 9 名

(2)会議の概要

1. 開会

2. 挨拶(柴崎市長)

おはようございます、和光市長の柴崎です。本日は第 18 回和光市地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当市の公共交通政策に対し、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、当市の公共交通政策については、令和 4 年度から和光市地域公共交通計画に基づく取組を進めてきましたが、今年度末をもって計画が満了します。

そのため本日は、これまでの当該計画に関する総括を行うとともに、第 2 期和光市地域公共交通計画の策定に向けた協議を予定しております。委員の皆様には、専門的な見地からのご意見を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

3. 報告事項

和光市地域公共交通計画等の実績報告及び第 21 回和光市公共交通研究会実施報告について

・「資料 1」「資料 2」を基に事務局より説明

会長

公共交通研究会において、参加者より循環バスの廃止への懸念に関する意見が寄せられた。今後の循環バスの運行継続の可能性について、事業者の状況を伺う。

委員

当社の運転手不足問題について、コロナ禍終息頃をピークに運転手の定員が約 100 人不足し、高速・深夜バスの減便等を行ったが、各自治体と協議のうえ、循環バスは維持することとした。

その後、運賃改定や賃上げの取組の結果、現在は不足人数が約 20 人まで回復しており、現時点で循環バスの廃止予定はない。

しかし、新規採用は 50 代が中心であり、5～10 年後には 60 代になっていくことを考えると、今後はどの会社も厳しい状況が予想される。そのため、運転手不足への対応として自動運転バス等の普及にも期待している。

会長

公共交通研究会の中で出てきた共有したい意見である。他に意見や質問はあるか。

委員

循環バスの定義は「わこば」だけという認識でよろしいか。また、収支率について、経費は何が対象となっているのか、間接経費がどう扱われているのか。職員の人件費等も含まれているのか。それと、35%という収支目標は、現状と若干乖離しているが、どう考えているのか。

事務局

循環バスの定義は、和光市内 5 ルートを運行している「わこば」で相違ない。

経費については、市職員の人件費は含まれていない。車両購入費、事業者の人件費、運転手の深夜割増費等が含まれている。

35%の目標については、高い目標であると思うが、これからも循環バスを継続して運行するためには、一定の収支が必要と考えている。循環バス見直しの際に、運賃も 150 円から 180 円、無料の方も 100 円という形で見直して、一定の収支が増えている。一方で、燃料費や保険料等、物価高騰により収支率が伸びてこないという課題もある。

計画見直しの際に、これらの数値の適正性や循環バスの安定した運行を続けていくため、どういった数字が適切か検討していく。

会長

収支率については、今回の計画策定で検討しなければならないと考えている。現在、人件費、燃料費、維持費など、あらゆる経費が高騰しており、コスト削減の要素を見出すのは難しい。一方、運賃の値上げも選択肢の一つかもしれないが、循環バスは 1 日約 500 人が利用しており、坂下・新倉コースでは実際に、乗り切れない状況が発生している。もし、現在の運賃のまま収支率 35%を目指すとなると、乗車人数を現在の約 1.6 倍に増やす必要がある。そう考えると、この目標値は現実的ではない可能性がある。

現行計画の策定時には、議論を行うための高解像度なデータが不足していた。今回の検討にあ

たっては、これまでの運行データ等を活用できるため、皆様のご意見を伺いながら慎重に検討していくことが重要である。

4. 議 事

第2期和光市地域公共交通計画の策定方針について

・「資料3」を基に事務局より説明

会長

関係者への個別ヒアリングは重要であると考えます。特に、現在の高齢者福祉センターの送迎車両のコースは循環バスと重複する部分が多い。

循環バスの利用状況については福島大学の学生により調査を行っており、この調査結果と高齢者福祉センターの運行データを比較することで、今後の循環バスのルート選定における重要な判断材料になる。

一方で、ニーズ把握に向けたバス状況調査というのは、循環バスではない民間路線バスが中心という話があったが、これはこういった目的で行うものか。

事務局

バス利用状況調査について、路線バスだけでなく循環バスも対象に行いたい。先だって報告した利用実態調査とは異なり、乗車している人の利用目的や課題感など、各バスに対する具体的な要望を把握したいと考えている。

会長

その他、公共交通計画の基本理念と基本方針について意見や質問はあるか。

今後調査を進めて目標設定を具体化していくにあたり、まずは今後の作業の前提として、基本理念と基本方針については現行計画を踏襲する方向で進めるということによろしいか。

・ 全会一致にて承認

その他

会長

その他、委員の皆様から全体を通して意見や共有したいことはあるか。

委員

自動運転バス事業については、議会で否決されたと理解している。これについてはこの交通会議で扱っていくのだろうか。

事務局

今年度の公共交通計画の策定と並行して、自動運転についての導入方針についても検討し、本会議でもご報告していく。この公共交通計画に自動運転の位置付けも入ると考えている。

委員

今後、市内の移動需要や輸送資源を整理していく際に、福祉送迎等についても公共交通計画の中で施策として調整していく考えか。若しくは、福祉分野の需要や送迎資源として把握し、整理をしていく考えか。市の認識を聞かせていただきたい。

事務局

計画策定にあたっては、高齢者福祉センター送迎車両だけでなく、市内の各種施設の送迎バスなどの現状も把握・整理したいと考えている。

ただ、計画内で混乗のような形で整理するのか、具体的な施策に落とし込むのかについては、まだ見えていない部分もある。そのため、運行に基づく法制度や、車両、運転手などのリソース等について把握したうえで、市が目指す計画の中で整理できる部分は事業として検討し、難しい部分は現時点では現状整理に留めるという形で進めていきたいと考える。

会長

国の検討会に参画する立場として、従来から「輸送資源の総動員」という言葉のもと、福祉施設の送迎車両等を広く活用して移動手段の選択肢を増やしていこうという動きがある。

一方、そうした車両は施設送迎が本来の目的であるため一般輸送への転用は容易ではなく、最初から活用を前提にできるものではないとも考えている。

ただ、資料3の高齢者福祉センターの送迎車両について中央コースは、循環バスの越後山コース、向山・牛房コースと重複している印象がある。その実態を把握することは今後のバス路線設計に役立つため、幅広く検討していく必要がある。

5. 閉会

事務局

最後に、今後進める地域公共交通計画策定支援業務の委託先について報告する。本計画に向けて実施した公募型プロポーザルにより、株式会社 IDA を委託先に選定した。今後は、現状分析やデータ収集、地域公共交通の課題抽出などにおいて、専門的な視点から支援を行ってもらう。計画の策定にあたっては、委員の地域の実情等を調査するため、その際には力添えをお願いする。

次回の協議会は、令和 8 年 9 月 18 日(金)の開催を想定している。詳細については、決まり次第連絡する。

以上